

## プレス発表資料

平成22年 9月 6日  
独立行政法人 防災科学技術研究所

### 「e コミ使って何つくろう?」: 新しい公共と防災力のための統合システム「e コミウェア」を紹介する公開セミナーをG 空間 EXPO で開催

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、パシフィコ横浜で開催される「G 空間 EXPO」において、9月20日（月・祝）に公開セミナー「地域における新しい公共と防災力～相互運用型 WebGIS と地域コミュニティ向けグループウェアの統合システム『e コミウェア』の活用～」を開催します。

このセミナーでは、当研究所が開発している地域協働や防災活動を支援する情報ツール群である「e コミウェア」に触れることができるコーナーを設置するほか、「e コミウェア」を活用した、地域の防災力向上に向けた取り組みを多数紹介します。

当研究所では、「e コミウェア」を基盤とした地域防災力向上に向けた取り組みを、地域協働・官民連携のもとに進めていきたいと考えています。e コミウェアの開発に興味のある方、e コミウェアを用いた地域の防災活動に興味のある方のご参加をお待ちしています。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

#### 【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所  
災害リスク情報プラットフォーム  
研究プロジェクト  
リスク研究グループ  
長坂、臼田、岡田  
電 話：029-863-7546

#### 【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所  
企画部広報普及課  
佐竹、山科  
電 話：029-863-7783  
F A X：029-851-1622

# 「e コミ使って何つくろう?」: 新しい公共と防災力のための統合システム「e コミウェア」を紹介する公開セミナーを G 空間 EXPO で開催

## 1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、パシフィコ横浜で開催される「G 空間 EXPO」において、9 月 20 日（月・祝）に公開セミナー「地域における新しい公共と防災力～相互運用型 WebGIS と地域コミュニティ向けグループウェアの統合システム『e コミウェア』の活用～」を開催します。

このセミナーでは、当研究所が開発している地域協働や防災活動を支援する情報ツール群である「e コミウェア」に触れることができるコーナーを設置するほか、「e コミウェア」を活用した、地域の防災力向上に向けた取り組みを多数紹介します。

当研究所では、「e コミウェア」を基盤とした地域防災力向上に向けた取り組みを、地域協働・官民連携のもとに進めていきたいと考えています。e コミウェアの開発に興味のある方、e コミウェアを用いた地域の防災活動に興味のある方のご参加をお待ちしています。

## 2. 開催概要

■名称	地域における新しい公共と防災力 ～相互運用型 WebGIS と地域コミュニティ向けグループウェアの統合システム「e コミウェア」の活用～
■主催	（独）防災科学技術研究所 災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクト
■協力	e コミウェアフォーラム <a href="http://ecom-ware.open-community.jp/">http://ecom-ware.open-community.jp/</a>
■日時	2010 年 9 月 20 日（月・祝） 13 時～16 時
■会場	パシフィコ横浜 アネックスホール F202
■対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加型地域コミュニティ Web サイトや地域住民の情報共有・活動支援ツールに興味がある方</li> <li>・ 地域防災力向上の取り組みに興味がある方（地域の防災リーダー、防災関係の自治体職員や研究者、災害ボランティアリーダーなど）</li> <li>・ e コミウェアを使った開発に興味がある方など</li> </ul>
■参加費	無料（出入自由）
■e コミ公式 HP	<a href="http://www.bosai-drip.jp/ecom-plat/">http://www.bosai-drip.jp/ecom-plat/</a>

## 3. 展示内容

本セミナーは、講義形式とはいたしません。会場への出入りは自由です。開催時間内にお越しください。以下に展示内容および体験企画（案）を示します。

- ・ 災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクトの紹介
- ・ e コミウェア全体
- ・ e コミグループウェア
- ・ e コミマップ、相互運用 g サーバー
- ・ e コミウェアフォーラム
- ・ e コミウェアを使った実証実験
- ・ 地域発・防災ラジオドラマ
- ・ 地域の取り組みと自治体の導入事例の紹介  
（つくば市、柏崎市北条地区、新潟県長岡市山古志地区、愛知県、藤沢市など）
- ・ e 防災マップ作成体験
- ・ e コミグループウェア利用体験
- ・ 自治体向け e コミウェア導入相談コーナー

e コミウェアを基盤とした地域防災力向上のために、多くの方の意見をお聞きしたいと考えています。また、地域協働・官民連携のもとで、e コミウェアを使って地域防災力向上のための取り組みや、e コミウェアで提供する機能の高度化を進めていきたいと考えておりますので、e コミウェアの開発に興味のある方、地域の防災活動に興味のある自治体および団体の参加をお待ちしております。

#### 4. G 空間 EXPO 内で主催するシンポジウム等のご案内

当研究所では、上記討論会以外に、G 空間 EXPO にて 3 つのシンポジウムおよびワークショップを開催いたします。あわせてご参加ください。

■9月20日(月・祝) 10:00-12:00 メッセージゾーンおよびアネックスホール F202

e 防災マップコンテスト記念シンポジウム

[http://www.bosai-drip.jp/g-spatial\\_emapsympo2010.htm](http://www.bosai-drip.jp/g-spatial_emapsympo2010.htm)

■9月21日(火) 10:00-12:00 会議センター304室

防災マッシュアップコンテスト記念シンポジウム

[http://www.bosai-drip.jp/g-spatial\\_mashup\\_sympo2010.htm](http://www.bosai-drip.jp/g-spatial_mashup_sympo2010.htm)

■9月21日(火) 13:00-16:00 会議センター304

新しい情報メディアの展開と地理空間情報の二次利用を考える

～防災分野から G 空間に向けて～

## 【補足説明資料 1】

### 「G 空間 EXPO」について

G 空間社会（地理空間情報高度利用社会）の実現に向けて、地図の流通、ナビゲーションなど新産業の創造に寄与する講演会やシンポジウム、新商品・新サービスの展示会及び産学官の関係者の情報交換会等を産・学・官の連携のもと初めて開催するイベントです。

■名称	G 空間 EXPO “いつ・どこ情報”で暮らしが変わる、未来を創る
■主催	G 空間 EXPO 実行委員会※
■後援	神奈川県、横浜市、横浜市教育委員会
■日時	2010 年 9 月 19 日(日)、20 日(月・祝)、21 日(火)
■場所	パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい 1-1-1）
■入場料	無料
■公式 HP	<a href="http://www.g-expo.jp/index.html">http://www.g-expo.jp/index.html</a>

※ 地理空間情報産学官連携協議会の下に産学官の約 50 団体・機関により構成されています。当研究所も主催者側の一員となっています。

## 【補足説明資料 2】

### e コミウェアについて

当研究所が開発した、地域協働や防災活動を支援するソフトウェア群です。「e コミウェア」は3つのソフトウェアで構成されています。

「e コミグループウェア」は、個人はもとよりコミュニティやグループによる情報発信や情報共有が可能なソーシャルウェアです。「e コミマップ」は、参加型で地図の作成が可能な相互運用側ウェブマッピングシステムです。「相互運用 g サーバー」は、国際標準の地理空間情報のインターネット上における流通方式に対応した地図配信サーバーで、e コミマップで配信したマップを表示可能です。

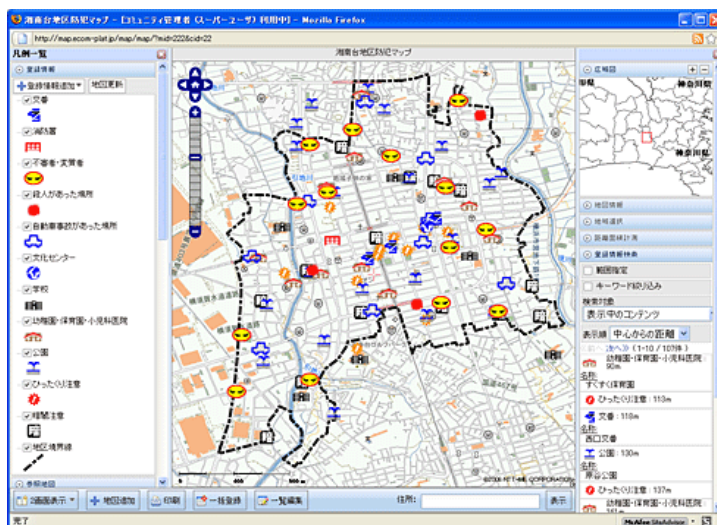
詳しくは、公式サイトをご覧ください。( <http://www.bosai-drip.jp/ecom-plat/> )

### (1) e コミグループウェア



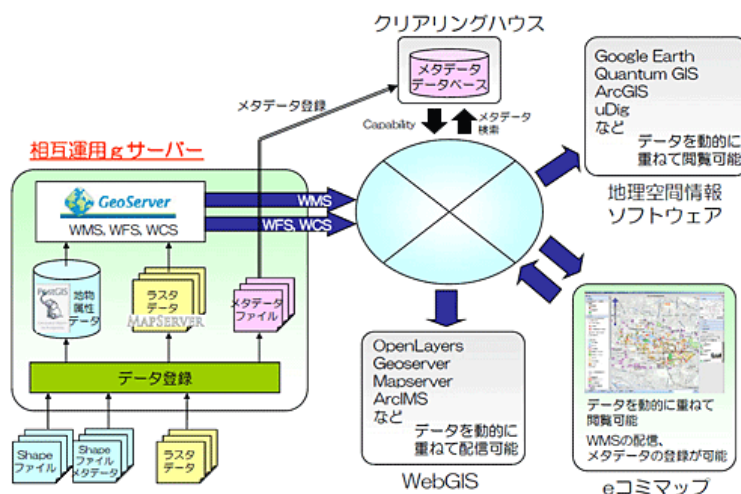
「e コミグループウェア」は、地域社会の新たな公共と地域経営を支える情報基盤を提供する、参加型コミュニティ Web システム (ソーシャルウェア) です。Ajax 等の技術を用いて、平易で直感的なユーザーインターフェイスを搭載した CMS (コンテンツ管理システム) や SNS (社会的 ネットワークをインターネットで構築するサービス) を統合して提供します。(2) の e コミマップと連携することも可能です。

## (2) eコミマップ



分散相互運用環境により、様々な主体によって提供される地理空間情報を参照しながら、個別地域の事情や特性を反映したオリジナルのマップを作成し、各種コミュニティの内外で共有することが可能です。eコミマップは、従来の単方向的な地理空間情報の配信及び利用の方式を見直し、分散して存在する複数の情報を動的かつ統合的に活用できるようにするために、配信側のサーバーとともに利活用側のアプリケーションを合わせて提供します。

## (3) 相互運用 g サーバー



各種地理空間情報を国際標準に準拠した形式 (WMS、WFS、WCS) で、マップをインターネット上に公開・配信するシステムです。ハザードマップ等の地理空間情報を配信する自治体や、大量の地理空間情報を保有する様々な研究機関、大学、NGO/NPO 等で利用されることを想定しています。自然災害分野や防災分野に限らず、多様な目的に利用できます。一般的なGISデータがあれば、本サーバーに登録することで、容易に公開することが可能です。e コミマップに相互運用gサーバーのマップを重ねることは簡単にできます。